

土曜特集



北海道 マイホームセンター

原点は福祉

地域の交流、生き生き

小平町

国の「ふれあいのまちづくり」事業 3年目

まじりの事業は、福祉、商売にあり立ちしかなかった。地域の交流の場と施設が持っている人材や機 牛園(大沢部部長)。

能を地域に開放、福祉の支 同団体は四十年前に開設され、援や町づくりの役にたつた。北 北海道小平高等学校が、十九歳から二十歳の知的障 ねは、この考え、同町は道 障者を持つ十八人が社会参 内では、一九九四年に「加 加と自らを目標として、こ 定され、同、道などから年 間三百万円の補助を五 年間は、活動している。

て九四年に「グリーンシヨ ン」の名称ができた。「こ 人口四千九百人の漁業と 業業の町で中心な活動を しているのは、鬼鹿田代の なを製作するなど、地 て、」。

九十歳の若さで、は美 障で悩んでいた。同町 鹿地区に住む若者の 八十歳以上の十二人を対象 に昨年九月から続けている ニーズをみた。

民生会は、地域やボラン ティアの百人が参加する 同事業実行委の企画の一 つ、実行委員の大沢を 障者を持つ十八人、高齢者 が地域の中で、動き、く

わがマチの



80歳以上の若者らしいお年寄りを抱いた民生会は、笑顔が広がった。一昨日の午後。

知的障害者施設核に 独居老人の誕生会も

普通生活が送れる環境を 築くのが「ふれあいの」の 目的。活動の場を話し



書物の散歩道

登山の楽しみ

時には机上で

自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身 自然の恵みかを全身

三和 裕信 フリーライター

した。その後、数多くのアウトドアの書物が発行されるようになった。

著者作家もアウトドアを嗜んでいます。開高、推定もこの世界を築いたといえま

そのなかでも登山の山母文学という独自の世界は誰かが認めてくださす。井上靖、新田次郎、深田久弥などが代表的な作家です。

札幌でも書物で山の楽しさを提案する試みが行われます。丸善四家店、四月十二日から十八日までの一週間(月曜定休)、「山の愉しみ」を地蔵・登山情報展「E1」のスペースで行われます。

今回は、「大雪山への誘い」の著者「一平真」は、登山の楽しさを「大雪山への誘い」として、あらゆる情報を展示するつもりです。

また、インターネットを使って世界中の山やアウトドアの情報をリアルタイムで行われます。

大沢さんらから三、四月から四、五月にかけて歩き始めたい立派な人たちが住みます。

入 小平

事業では、独居老人の生活のワークキャンプ、除雪や、「ふれあいの」を、地域の人が団生し、命を懸ける場面が、あちこちで見られます。

大沢さんらから三、四月から四、五月にかけて歩き始めたい立派な人たちが住みます。

入 小平